



少子化対策における ワーク・ライフ・バランスへの期待

2007年8月28日

RIETI政策シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画」
第3セッション「ワーク・ライフ・バランス：経済的発想の功罪」

株式会社日本総合研究所 池本美香

E-mail: ikemoto.mika@jri.co.jp

———参考文献———

『失われる子育ての時間』勁草書房2003年7月刊

これまでの少子化対策に対する違和感

■ 少子化対策の主な動き

- 1986年 男女雇用機会均等法 →1989年 合計特殊出生率1.57ショック
- 1992年 育児休業法
- 1994年 緊急保育対策(時間延長保育、低年齢児保育など)
- 2001年 待機児童ゼロ作戦(認証保育所、預かり保育、定員弾力化、公設民営化等)

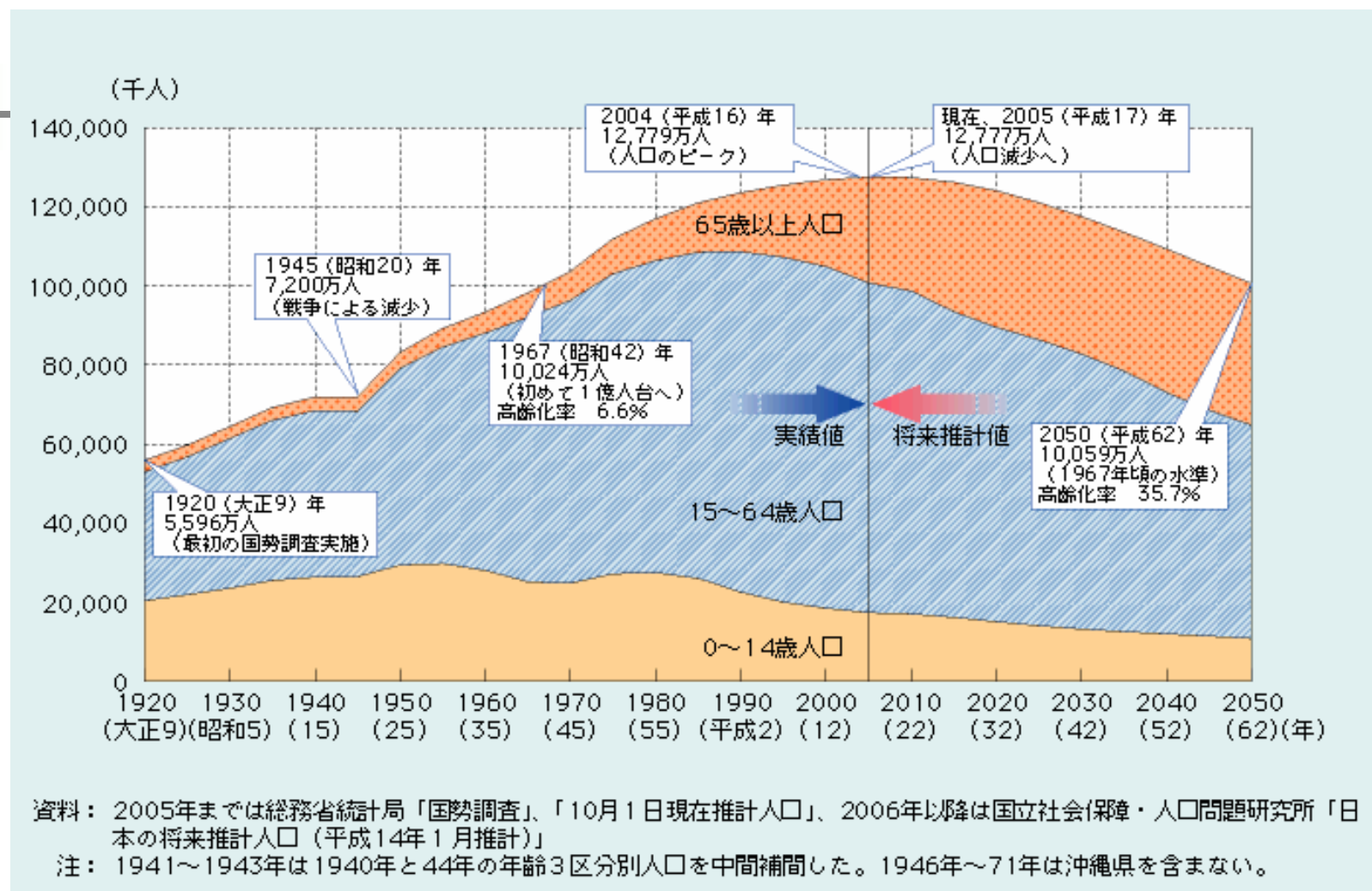
■ 性別役割分担から「女性の働く権利」重視へ

働く女性礼賛のムード(労働力不足、税収等)と専業主婦の居心地の悪さ。人口減少下、女性に働いてもらい子どもも産んでほしいという期待。一方で、子育ての問題が増加(児童虐待、育児不安、幼児教育の問題、少子化)。

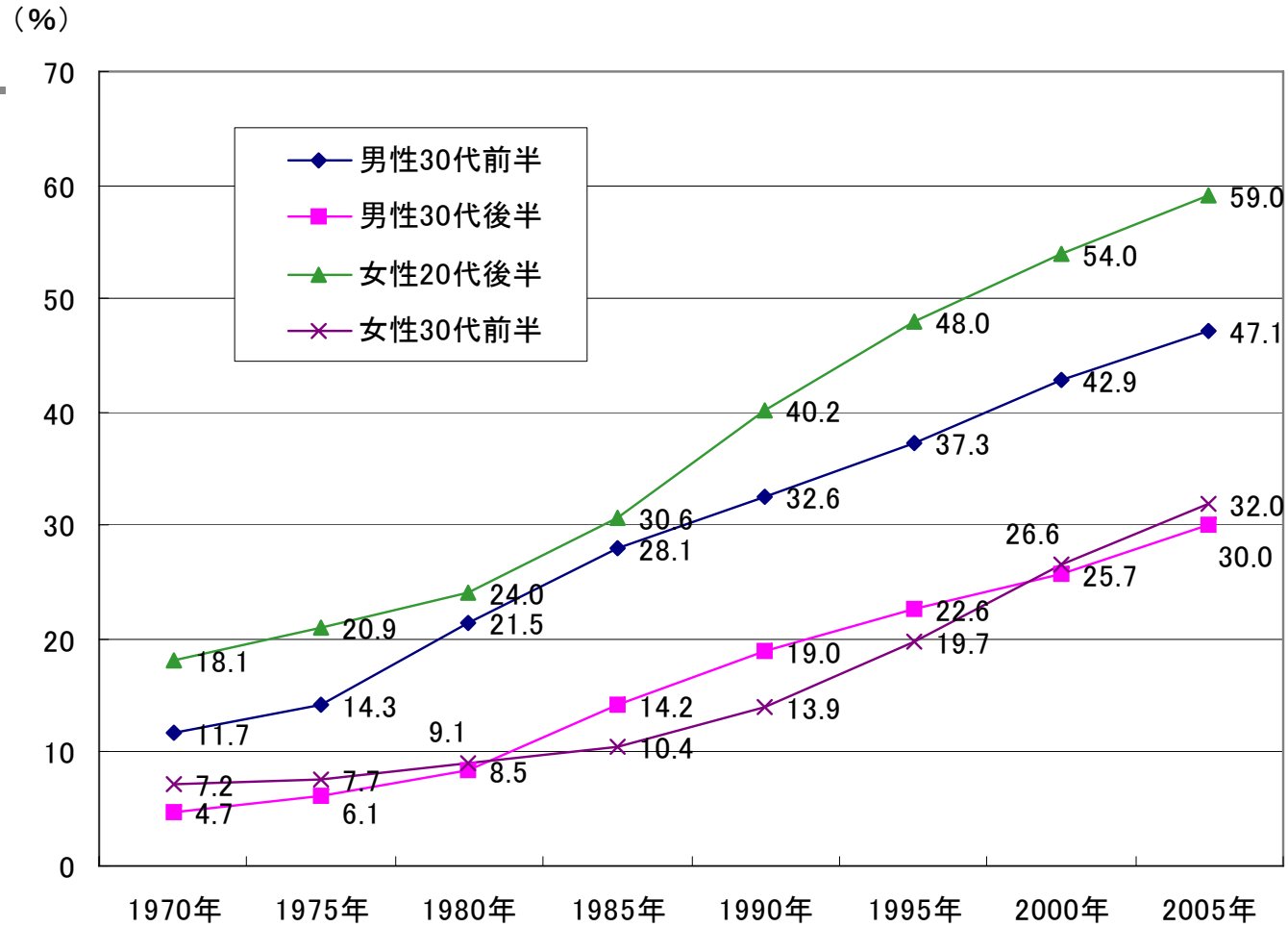
■ 少子化対策に対する問題意識

経済的な面だけで少子化が議論されていないか。孤立化・アトム化する社会、競争に同調させられる女性、子どもの育つ環境等も問題にすべき。

人口構造の変化(出所:平成18年版少子化社会白書)



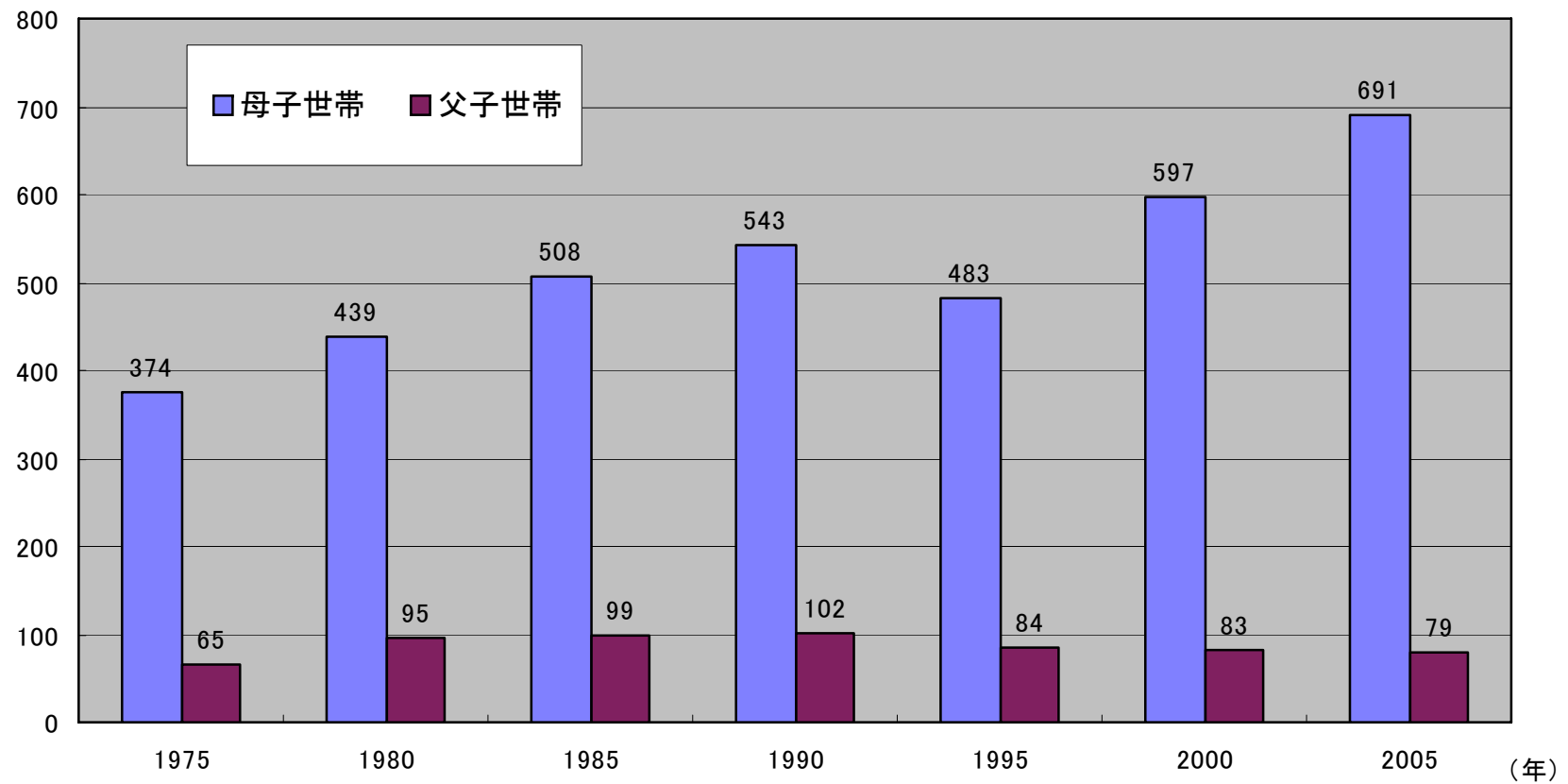
未婚率の推移(男女・年齢別)



(資料)総務省「国勢調査」

母子世帯の増加

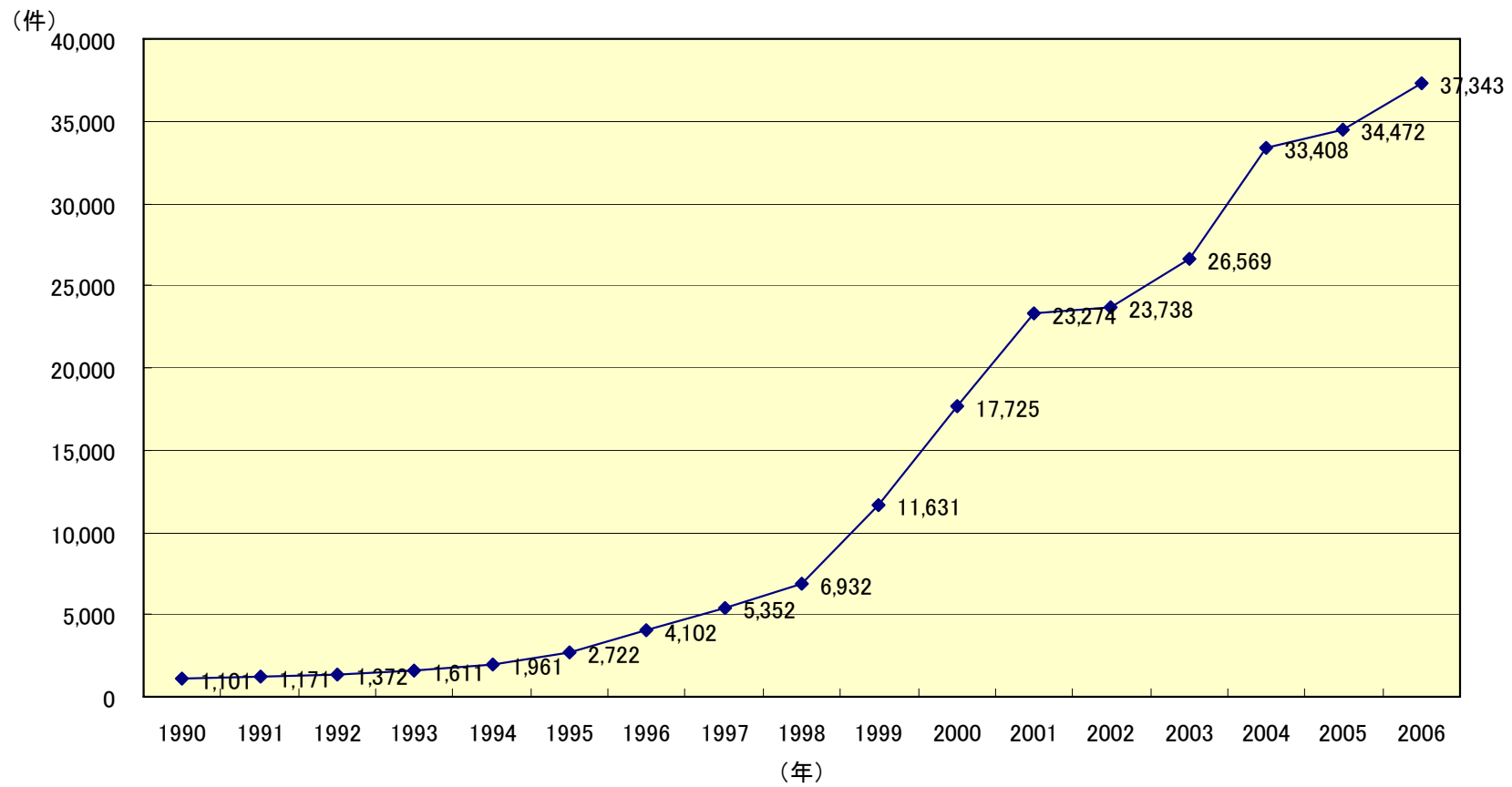
(千世帯)



(注) 母子(父子)世帯は配偶者のいない65歳未満の女(男)と20歳未満のその子のみで構成される世帯。

(資料) 厚生労働省統計情報部「厚生行政基礎調査報告」「国民生活基礎調査」

児童相談所における児童虐待相談対応件数の推移



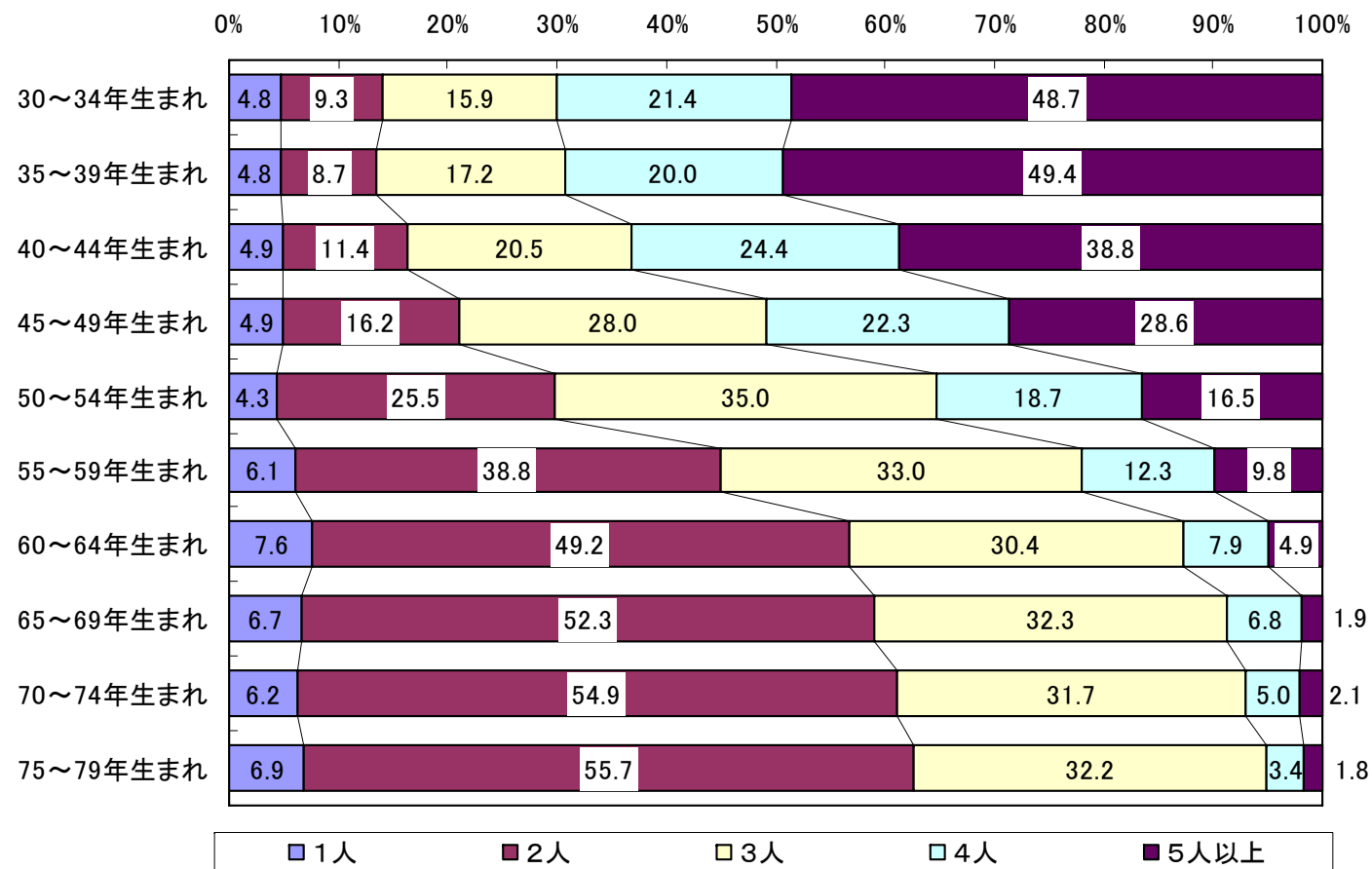
(資料)厚生労働省



少子化の背景：経済的発想の広がり

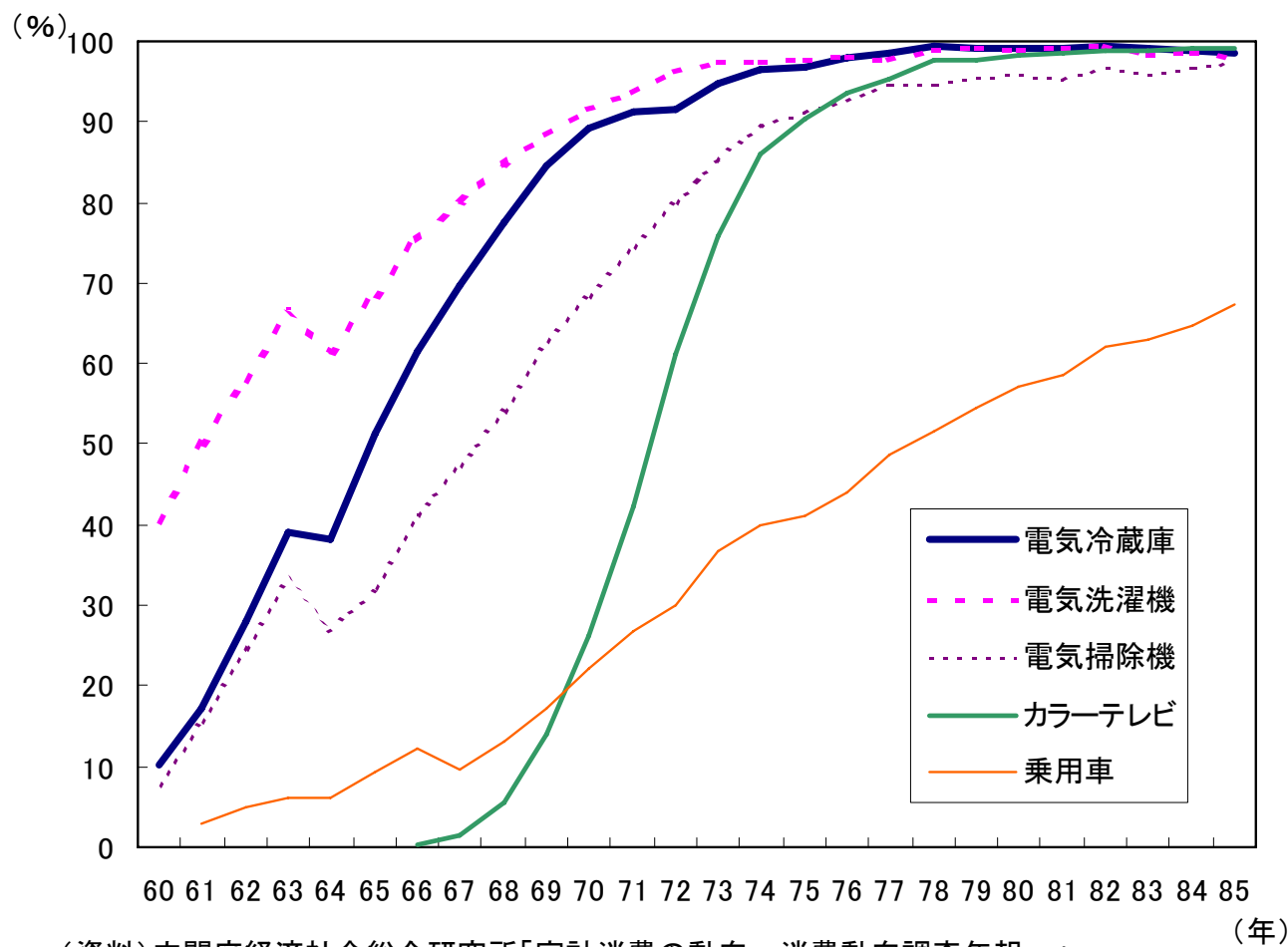
- **女性の時間に経済的な価値**
雇用機会均等法による「子育ては損」「産み損」という意識。木を育てることと子どもを育てることの共通性（内山節『時間についての十二章』）。
- **選択の自由と自己責任の強調がもたらしたものの**
親になることの責任の重さ。過干渉とネグレクトの増加。
- **専業主婦の子育て支援が遅れた理由**
税金を払っていない、裕福というイメージ。専業主婦バッシング。
- **都市化・サービス化社会**
協働の必要性が低下。「社会力」の不足（門脇厚司『子どもの社会力』）。未婚・離婚の増加。近所づきあいの減少と孤独な子育て。
- **経済成長・競争・効率重視の価値観**
偏差値教育、雇用機会均等法など。非効率な子育てに対する抵抗感、競争的子育てのストレスなど。一定の方向付けがされた選択の自由ではないか（シュムークラー『選択という幻想』）。

きょうだい数(生まれた年別)



(資料) 厚生省人口問題研究所「現代日本の世帯変動－第3回世帯動態調査(1994年)－」

耐久消費財の普及率



(資料)内閣府経済社会総合研究所「家計消費の動向－消費動向調査年報－」

経済的発想にもとづく少子化対策で 幸せになれるのか

■ 子育てのマクドナルド化

効率性・予測可能性・計算可能性を重視するファストフード的価値観に沿った少子化対策(リッツア『マクドナルド化する社会』)。

■ 失われる子育ての時間

おまかせ保育と保育者のジレンマ。保育者は親子を幸せにしているか。延長保育、病児保育を選択させられる親。マクドナルド化は親密な人間関係、そこから得られる安心や創造性を奪う。

■ マクドナルド化に侵食されない領域を確保する必要

■ 効率化だけでなく非効率の回復も必要。子どもにとって、親の経済的安定だけでなく、精神的安定(親密な人間関係や学びの機会)が不可欠。

■ 男女共に「子育てをする権利」を議論すべき

■ 女性の働く権利を軸に子育ての負担を軽減する方向だけでなく、豊かな子育ての時間をどう保障するかの議論が必要。子育てを負担、義務としてでなく、自由、権利としてとらえる視点が必要ではないか。

経済的発想からは支持されにくい 「子育てをする権利」を保障する政策

- 子育ての時間を確保するために
 - 育児休業制度・短時間勤務
 - 在宅育児手当(90年～フィンランド、98年～ノルウェー)
- 子育ての時間を豊かなものにするために
 - フランスの親保育園(親も保育活動に参加)
 - イギリスのアーリー・エクセレンス・センター(親・地域の安定を目指す)
 - ニュージーランドの協働保育活動プレイセンター(親の学習と協働)
 - イタリアの時間銀行(近所づきあいの復活)
- 子育てをする権利を保障する政策の狙い
 - 子どもの権利条約(前文:家族が、社会の基礎的な集団として、並びに家族のすべての構成員、特に、児童の成長及び福祉のための自然な環境として、社会においてその責任を十分に引き受けることができるよう必要な保護及び援助を与えられるべき)
- 親のエンパワーメント(生涯学習の機会、職業訓練)
- コミュニティづくり(ソーシャル・キャピタルの形成)

<ニュージーランド> 親たちによる協働保育活動プレイセンター
活動理念“Families growing together”を表すロゴマーク



保育者として絵本の読み聞かせをする親 ↑

- 保育所、幼稚園に次ぐ第三の幼児教育施設
- 専門家の保育者を雇わず、親も保育について学習しながら 協働で保育者の役割を担う
- 50年以上前から政府が補助、全国約500ヶ所

幼児教育や施設運営に関する知識を
身に付ける親の学習会 →



<イタリア> 時間銀行

- サービスした時間を貯蓄したり引き出したりする仕組み。
- 女性の時間の再評価。近隣の助け合いの復活を目指す運動。



↑ ローマの時間銀行で
使われている小切手

時間銀行の仕組みで行われている
英会話教室 →



- 国内約300ヶ所
- 自治体が活動を支援
- 参加には保証人が必要
- 3、4ヶ月で貯蓄の権利が消滅する仕組み(将来の安心ではなく、人々の交流の促進が目的)

経済的発想で失われた 子どもの環境を取り戻す試み

- 経済的発想の広がりとは、親の子育ての時間だけでなく、子どもが育つ上で必要な環境も奪ったのではないか。
- 自然環境を取り戻す試み
 - 森の幼稚園(森での遊び主体の幼児教育活動。デンマーク発、ドイツなど)
 - クラインガルテン(ドイツ)
 - 学校の森(日本、韓国)
- 多世代との交流を取り戻す試み
 - 合築による世代間交流(日本、イギリスなど)
 - 冒険遊び場運動(デンマーク発、日本国内で200カ所以上)
- 子育てをする権利を保障する政策・子どもの時間を豊かにする政策づくりの困難
 - 経済的発想・マクドナルド化(効率性、予測可能性、計算可能性)に逆行。効果があいまい。安全性の問題。責任の所在があいまい。

<ドイツ>

子どもの健康問題からスタートした「クラインガルテン運動」



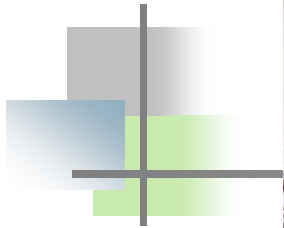
- 「子どもの健康には土と緑が必要」という医者呼びかけからスタート
- 1919年に法整備
- 一区画100坪、100～200区画で一地区を形成
- 25年以上の長期利用
- 自然保護、余暇の充実、家族の会話、高齢者の生きがいなどの様々な効果（病院よりクラインガルテンを）

<日本>学校の森



- 1986年から学校に森をつくる活動がスタート(写真:新潟県長岡市川崎小学校)。2004年よりNPO学校の森が、学校での森づくりを支援。
- 子どもたちのストレスを解消。
- 自然、地域社会から閉ざされていた学校を開く効果。
- 子どもたちが木を植え、地域の後援会とともに森を維持していくことで、いのちとのつながり、地域とのつながり、未来へのつながりを実感できる場となる。
- 韓国でも、1999年より「学校の森」づくり国民運動がスタート。自治体や企業などの援助も得て広がっている。

(日本ホリスティック教育協会 今井重孝・佐川通編『学校に森をつくろう!』より)



合築による世代間交流

← 老人ホームと保育所の合築

イギリス
エミリージャクソンハウス

参考文献： 広井良典編著『「老人と子ども」統合ケア』中央法規



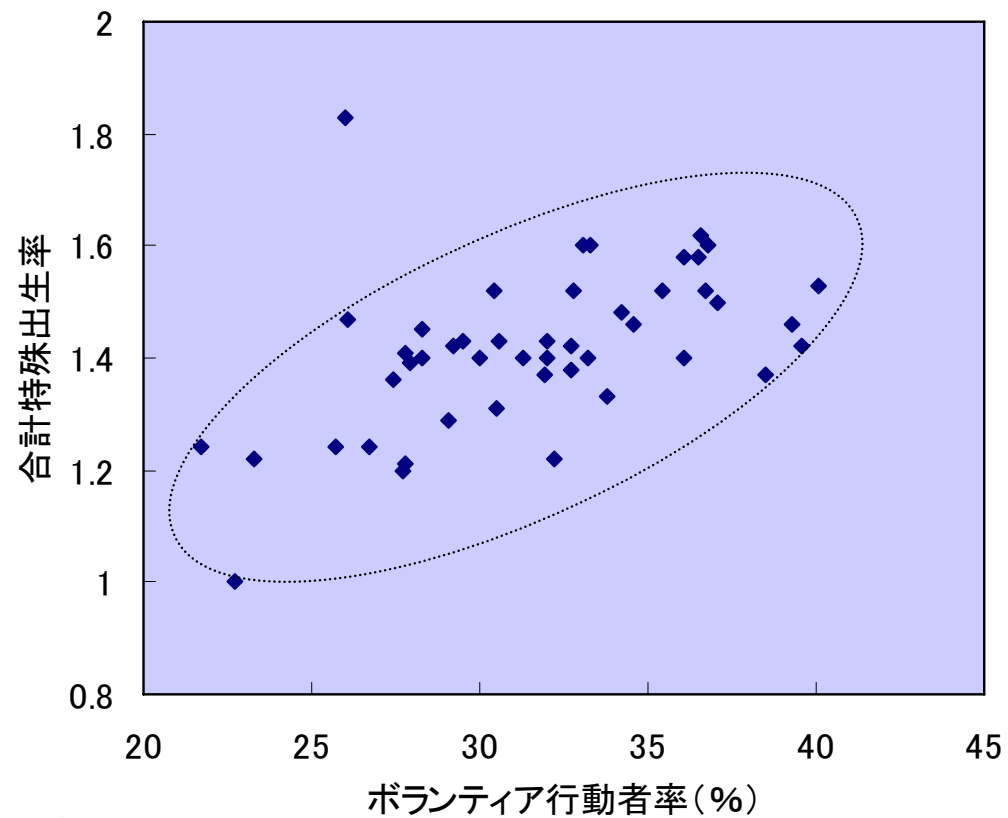
← デイサービスの遊びのプログラムに保育園の子どもが参加

愛知県大府市市
長草保育園・デイサービス
センター

少子化対策における ワーク・ライフ・バランスへの期待

- 森づくり政策に学ぶ少子化対策
- 経済活動の資源としての価値だけでなく、自然環境や文化的装置としての価値に着目し、歴史的・文化的特長を生かした自律的な管理に。
- 「つなぐ存在」として子どもをとらえ直す
子どもを労働力・人材としてではなく、人と人、現在と未来をつなぐ社会の核となる存在として議論する。人々がばらばらで、未来とのつながりも感じられないといった、社会の不安感・閉塞感を変えていく少子化対策が必要。経済的な発想による効率的な時間配分だけでなく、人と人をつなぎ関係を深めるための非経済的な時間を確保する必要。
- 子どもという存在の可能性
経済的な発想で社会に子育てを合わせるのではなく、子育てをきっかけに非経済的な時間の価値が重視され、社会が変わる可能性に期待。
- 少子化しない社会の背景にある意識
- 競争より協力、長期的な人間関係、ソーシャル・キャピタル

ボランティア行動者率と合計特殊出生率の関係 ～社会的資本(ソーシャル・キャピタル)の可能性



(注) データは2001年

(資料) 総務省統計局「社会生活基本調査」、厚生労働省「人口動態統計」

少子化対策：経済的発想の功罪

- 経済的発想がもたらしたプラス面
- 女性の働く権利の保障、選択の自由、便利な社会
- 経済的発想がもたらしたマイナス面
- 失われる子育ての時間、人々のつながりの希薄化、不安、子育ての負担感、子どもの環境の悪化（自然、多世代、ストレス、犯罪など）
- 経済学への期待
- 人々の幸福感を高めるなどの精神的な面や、自然環境の保全なども含め、経済成長だけでなく、多様な価値の実現に向けた議論。（たとえば「利子のつく貨幣」と「老化する貨幣」の議論など）
- 教育についても、経済成長に貢献する労働力となるための教育ではなく、共に生きることを学ぶ教育（learning to live together）の議論を期待。
- ワーク・ライフ・バランスに向けて
- ワークの魅力に対してライフの魅力を高めることが必要。そのためには、子育てのプラスのイメージが描けるような環境整備が不可欠。